

定期試験 解答・解説（暫定版）

授業科目名	法理学	2016 年度 : 前期	
		定期試験期間内	
担当教員名	足立英彦	試験日・時間	8 月 4 日 (木)
			14 : 45 ~ 16 : 15

1. 君は a と b に出会った。君の質問に対し、a が「我々の少なくとも 1 人は悪党だ」と答えた。さて a と b はそれぞれ悪党か騎士か？ ただし、騎士は常に正直に語る人、悪党は常に嘘をつく人である。(5 点)

解答 「a が騎士である」という命題を A, 「b が騎士である」という命題を B とする。そうすると、「我々の少なくとも 1 人は悪党だ」は $\neg A \vee \neg B$ である。ところで、「a が「P」と言った」という命題は「 $A \leftrightarrow P$ 」と論理的同値になるので、a の発言を論理式で表すと $A \leftrightarrow (\neg A \vee \neg B)$ となる。この論理式が真になるのは、下表の通り、2 行目の A が真で B が偽の場合だけである。したがって a は騎士で b は悪党である。

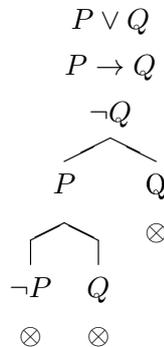
解説 戸田山和久『論理学をつくる』（名古屋大学出版会、2000 年）61 頁練習問題 13(1) の問題。

A	B	$\neg A$	$\neg B$	$\neg A \vee \neg B$	$A \leftrightarrow (\neg A \vee \neg B)$
1	1	0	0	0	0
1	0	0	1	1	1
0	1	1	0	1	0
0	0	1	1	1	0

2. 次の論証（推論）が妥当であるかどうかをタブローを使って確かめなさい。(各 5 点)

(a) $P \vee Q, P \rightarrow Q$ したがって, Q

解答



タブローが閉じた。すなわち前提がすべて真かつ結論が偽になる場合（反例）がないので、問の推論は妥当である。

(b) $P \rightarrow Q, \neg P$ したがって $\neg Q$

解答

$$\begin{array}{c} P \rightarrow Q \\ \neg P \\ \neg\neg Q \\ \wedge \\ \neg P \quad Q \end{array}$$

タブローが閉じた。すなわち前提がすべて真かつ結論が偽になる場合（反例）があるので、問の推論は非妥当である。

3. $P \rightarrow (Q \rightarrow R)$ と $Q \rightarrow (P \rightarrow R)$ は論理的同値であるか。タブローを使って確かめなさい。(5点)

解答

$P \rightarrow (Q \rightarrow R)$ と $Q \rightarrow (P \rightarrow R)$ が論理的同値であるということは、 $P \rightarrow (Q \rightarrow R) \models Q \rightarrow (P \rightarrow R)$ と $Q \rightarrow (P \rightarrow R) \models P \rightarrow (Q \rightarrow R)$ がともに成り立つということである。

(タブロー省略*1)

2つのタブローがともに閉じるので、問の2つの式は論理的同値である。

4. 次の語句を説明しなさい。(各5点)

(a) 権限

解答 権限とは、一般的規範や個別的規範を制定、変更、廃止することによって、自分や他人の地位に変更を加える能力のことである。

(b) 責務

解答 責務とは、権限を有する者が定めた規範に従わなければならない地位のことである。

(c) 制度的保障

解答 制度的保障とは、制度を保障することであるが、制度は規範の集合なので、規範の集合を保障することでもある。また、規範は制度的行為によって定められるが、この制度的行為は、規範を定める権限を授權規範によって与えられている者だけが行うことができる。したがって制度的保障は、授權規範を保障することによって規範を制定するという制度的行為を保障することでもある。

(d) 法解釈

解答 法解釈とは個別的判断（または個別的法規範）を演繹するために必要な前提を追加し、それを論証（正当化）することである。

*1 『論理学をつくる』380頁解答参照。

5. 物権と憲法上の自由権について、両者の共通点と違いを説明しなさい。(10点)

解答 物権と憲法上の自由権は、両者ともに自由権であるという点で、すなわち、作為と不作為がともに許されているという意味での自由と、その作為と不作為を妨害しないよう相手方に求める権利とから構成される法的地位である、という点では同じである。相違は、物権の主体は特定の者（物を支配する人）であり、その名宛人は不特定の者（物権の主体以外の人）であるのに対して、憲法上の自由権の主体は不特定の者（国民又は人一般）であり、その名宛人は特定の者（国）である、という点にある。

6. 私人の権限と国会の権限について、両者の共通点と違いを説明しなさい。(10点)

解答 私人が有する権限と国会が有する権限は、ともに規範を創造する権限であるという点では同じである。また、その権限によって他者になんらかの義務を課す場合、その義務を課される他者の同意を必要とするという点も同じである。

他方、私人が有する権限は、特定の人を義務づける個別規範（契約）を定める権限であるのに対して、国会が有する権限は、不特定のすべての人を義務づける一般規範（法律）を定める権限である。この違いには、同意のあり方の違いが反映している。私人は、義務を負う特定の相手方の同意を得てはじめて、その相手方を義務づけることができる。私人が不特定のすべての人から直接同意を得ることは、個人の能力の限界を考慮すれば事実上不可能であり、したがって私人に一般規範を定める権限を与えることは不可能である。これに対して現代の民主主義国家の国会は、国民が選挙を通して選んだ国会議員で構成されており、その過半数の議員が定める法律には、その議員を選んだ国民の、したがって相対的多数の国民の間接的な同意が与えられているとみなすことができる。このことを主要な根拠として、国会には一般規範を定めることによって不特定のすべての人を義務づける権限が与えられているのである。

7. アリストテレスの正義論によれば、どのような状態が「正しい」（正義にかなっている）といえるのか。次の語を用いつつ説明しなさい。(10点)

平均的正義・分配的正義・交換的正義・矯正的正義

解答 アリストテレスによれば、正義は合法性と平等を意味する。前者は法に従うことであり、後者は何かと何か等しい、すなわち同じであることである。平等の意味での正義には、平均的正義と分配的正義とがある。平均的正義とは、2者間で利益や負担が等しいことである。この平均的正義は、さらに交換的正義と矯正的正義に分けられる。交換的正義とは、売買や交換などで引き渡される物や貨幣の価値が同じであることを、矯正的正義は、犯罪や不法行為などの不正な行為がなされた際に、その被害者が蒙った負担の重みと、元の状態に戻すために加害者に課される負担、すなわち刑罰や損害賠償の重みが同じであることを指す。これに対して分配的正義とは、「等しき者は等しく扱え」という標語で表される原理であり、狭義では同じ性質を有する者に同じ利益や負担を配ることを意味するが、広義では、各人の性質に応じて、その性質に見合った分配をすることを意味する。なお分配的正義の原理は、

人々が有するどのような性質に着目して「等しい者」を決めるべきなのか、また、そのようにして選ばれた等しい者の集団をどのように扱うべきなのかについては、何も語らない。この「性質」と「扱い方」は、どのような目的をその分配で実現しようとするのか、またその目的を実現するのに最も適しており、さらに他の目的を不必要に侵害しない配分の仕方は何であるかを考慮して決めなければならない。

8. 講義に対するご意見、ご感想、改善提案等があれば、答案用紙に記入してください（任意）。
回答 否定的なご意見はありませんでした。

参考（2016年8月24日現在）

- 履修登録 11 名，定期試験受験者 7 名，定期試験平均点 50.6 点（70 点満点），総合平均点 72.6 点（100 点満点）
- 総合評価

S(100-90)	A(89-80)	B(79-70)	C(69-60)	不可 (59-0)	放棄
1	2	2	1	1	4
- 定期試験 68 点 1 名，総合 98 点 1 名。

以上